

退勇御生校長校



校長先生御勇退
卒業生 記念号

発行
洛星新聞局
☎ (463) 3281 (代)
印刷/南片桐輕印刷

本校の校長を十六年間にわたって務めて来られた村田源次校長が、この度その任を降りられることになりました。
なお先生は倫理・宗教の教師として引き続き本校で教鞭をとられます。



— ずいぶん突然お辞めになるように感じるので、どうしてお辞めになるのですか。 —

若く人との後退の時期というものがあつた。早く若い人に譲って、学校

村田源次校長先生の

御勇退にあつて

理事長 奥本裕昭



村田校長先生には、一九八八年三月三十一日付をもって校長職を退任されることになりました。

村田神父様、前任のラール校長先生の後を受けて、洛星中等高等学校の第4代目の校長に就任されたの

つてすぐ働けないというところで七年間副校長をしてきたこともあつて。あと、やはり洛星はヴィクトリアの学校ですから、ヴィクトリアの神父が校長になるのが、ミッションスクールとしてのイメージを保つためにも大切なことだと思つた。それで校長をひきうけた訳です。

— 今まで校長先生を努めてこられて、思いでに残っていることなど、お聞かせ下さい。 —

日本でミッションスクールの多くがみとめられてきたという点です。私が校長になった頃、急にカトリックの学校の名前があがってきた。変な言い方かもしれないけれど、進学校として、あるいは有名学校として名をあげている学校は、カトリックの学校が多いですね。各地にあるカトリックの男子校がどこでも印象

長として引き継がれたのでありますが、学校環境ごとに私立学校を取り巻く情勢が厳しさを増して来た時代であり、その御苦労は並大抵のことではなかったと想像されます。

この一九七二年は、洛星が創立満二十年を終え、二年目に入った年でした。全国の大学、高等学校に吹き荒れた学園紛争の嵐もようやく沈静化のきざしを見せていた。一方で大

学進学を受験競争が激化の一途をたどり始め、洛星もその渦中であつて、ともすれば建学の精神を根底から

付けられている。ただ勉強ができるからというだけでなく、日本の私学の間で新しい学校として、多くの人の注目の的になつていくという意味では、校長としてカトリック学校の誇りを持つことができたと思つた。そういう学校で十六年間校長として働いたのは大きな喜びだったと言えよう。ね。こういうことをみんなにも知ってほしい。だからいつもカトリック学校といふことを強調しているのだ

カトリックの学校の良し所とはどんな点でしょう。

卒業式で石井君が言つたように、他の学校では得られない者が得られる、といふところですね。卒業生に神主になつていく人がいるのだけれど、彼らはカトリックの学校を卒業した、残っていることなど、お聞かせ下さい。

てこれた変わつてきた点などあります。洛星の方針そのものは変わらないのだけれど、いい意味でも悪い意味でも、社会全体が変わつてきているといふことですか。だから洛星だけが変つていくのではなく、意味のあるものでなく、日本の社会そのものが変わつたのです。今の生徒のお父さんお母さんのほとんどは戦争の苦しみを知りません。ある意味で自由な世代と言えらるけれど、昔の両親のように規則をきかんと守らせる、ということを守らなければならぬ。規則を守りながらの自由、それが大事にしていく。バス代なんかも代りに払つてくれたりした。それが、今は道をあけてくれる人さえない。やはり、世界そのものが、人間の価値観がかわつてきている。個人主義的になつてきている。気がした。バスや電車に身体障害者の席や老人の席などがあるけれど、譲つてくれる人はほとんどいない。そういう意味では、自分の力で生きていくことが大切なことだと思つた。例えば忙しいからといって他人から依頼された仕事を断つたり、自分以外の人がやってもいい。やはり、時代の移り変わりを感ぜないわけにはい

う重い十字架を背負つておられます。それを、毎日自分で定量のインシュリンを注射し、ダイエットと適度の運動によるカロリーの自己管理を何年もの間、一日も休まれないこと、続けることが校長職であったこと、戦後であつたことが想像できるのではないかと思います。また校長になられてからは、学校外でも京都府私立中等学校校長会の重要メンバーとして、また最近では京都府私立学校協会の会長として、京都府の教育のために大きな貢献をして来

村田神父様には校長を退任されても、引続いて学校で生徒諸君の宗教倫理教育を担当していただくことになつております。

最後になりましたが、村田神父様の長い間の御苦勞に對し、生徒、卒業生、保護者、教職員の皆さんとともに心から御礼を申し上げます。結びの言葉にいたします。

村田神父様には校長を退任されても、引続いて学校で生徒諸君の宗教倫理教育を担当していただくことになつております。

最後になりましたが、村田神父様の長い間の御苦勞に對し、生徒、卒業生、保護者、教職員の皆さんとともに心から御礼を申し上げます。結びの言葉にいたします。

村田神父様には校長を退任されても、引続いて学校で生徒諸君の宗教倫理教育を担当していただくことになつております。

最後になりましたが、村田神父様の長い間の御苦勞に對し、生徒、卒業生、保護者、教職員の皆さんとともに心から御礼を申し上げます。結びの言葉にいたします。

村田神父様には校長を退任されても、引続いて学校で生徒諸君の宗教倫理教育を担当していただくことになつております。



— 社会の移り変わりをどのように感じておられますか。 —

カナダやアメリカに行つてみると、戦前・戦後に比べると、戦後はかなり変わったのがよくわかる。昔はカナダのケベック州では神父がすくなく大事にしていて、バス代なんかも代りに払つてくれたりした。それが、今は道をあけてくれる人さえない。やはり、世界そのものが、人間の価値観がかわつてきている。個人主義的になつてきている。気がした。バスや電車に身体障害者の席や老人の席などがあるけれど、譲つてくれる人はほとんどいない。そういう意味では、自分の力で生きていくことが大切なことだと思つた。例えば忙しいからといって他人から依頼された仕事を断つたり、自分以外の人がやってもいい。やはり、時代の移り変わりを感ぜないわけにはい

村田源次校長先生の御勇退にあつて

副校長 森住弘



早いものです。村田神父様が洛星の校長になられてから一十六年たちました。その当時は大学紛争の嵐は幾分収まる傾向にあつたものの、世界的に旧い秩序を見直そうという流動の時期でした。

中学を卒業すると間もなく日本を離れ、外国生活が長かった村田神父は日本の習慣と日本の言葉に多少の不慣れを感じた。修道士としての日常生活もフランス語が主体なので有名な村田神父の「一」であるところの人々」といったような翻訳調のセリフがでてるの。しかし、とつとつとした話し方なのに、皆に深い感銘を与えるのは、内容の真実さとお人柄によるものではないでしょうか。

私はある保護者から「村田神父様とお知り合いにな

きません。しかし、私が何事も自分でするという事は君達の見本になると思つた。ね。

それでも寂しき、苦しみ、喜びは今も二千年前も変わらな。二月九日の卒業式のようにひきしまつた雰囲気の中で卒業生が洛星を卒業するのを寂しがつていたのは昔と変わらなせんね。

— 校長先生として今までやってこられた仕事のことで「これはやったぞ」と自慢できる様な事は、自分自身では将来にやな

いと評価できないのじやないかな。でも、強いて挙げるとすれば、聖ヴィクトリアの精神を生徒や教職員にわたつてもらへるよう、大

理石のたてを影り直して正面玄関のヴィクトリア像の横に置いたことかな。

他には、今の中学校舎だけだった洛星が、教職員や保護者、生徒と一緒になつて、これだけ大きくなつたこと。私が校長になつてから教員の海外研修の補助ができるようになった。奨学金や他の準備金も作つていける。これらが他の校に負けない物になつて思つてます。私が考え、保護者の御協力のもとでバザーができるようになって、貧しい国々を援助できるようになつたのも、ある意味では大きな事業といえると思つた。教職員や生徒の目に見えないところで仕事でできたのではないかなあ、と

す。社会科の田中成彦先生もその一人のようです。

学校以外でも私立学校の校長会やその他の色々な会の重要な役員をされ、それぞれにたくはならぬ役割を果しておられます。

学校での授業は毎年高3の倫理の時間を担当しておられます。英語や数学のようにはすぐ点数に表れる教科ではありませんが、人生で人間を作るため一番大切な教科です。ある古い卒業生から聞いた話があります。「卒業して何十年もたつて、人生のある判断をしなればならないとき、損得で考

えるのでなく洛星の倫理の授業の話が思い出される。教育とはそのようなものだと思つた。神父様の言葉はいつ迄も生き続け洛星ファミリーを導き続けるでしょう。

昭和二十七年ヴィクトリア学園創立のときから今日に至るまで長い間本館にお世話になりました。創立当時真黒だった髪の毛もすっかり白くなりました。校長をおやめになつてからも学校のために働きたいと、そうぞう思つておりました。では神父様いつ迄も元気です。

思っています。これからますます大きくしてもらえるような土台だけは作つたつもりです。

最後に洛星の生徒に言つておきたいことはあります。

やるべきときはしっかりとやる人間になつて欲しい。文化祭や体育祭であれだけのことができるのだから、他の学校ではあつたことではできないもの。だから、このことは、これから全体に叫んでいきたい。あるいは陰ながら叫んでいきたいと思つています。

— 長い間ご苦労さまでした。これからも御健康に氣をつけて変わらぬご指導をお願いしま

す。

す。

す。

す。

す。

さらば三十一期生

わたしはあなたを教え、あなたの行くべき道を示し、わたしの目をあなたにとめて、さとすであらう。

去る二月七日、第三十一回高校卒業式が行われ、二百六十三名の卒業生が洛星を巣立って行きました。



答 辞

HIII A 今西信隆
「人生はただ一度しかない。一度過ぎ去った時間は二度と戻らない。故に、自分で定めた目標に向けて前進するしかない。後悔を残さないために全精力を傾けるべきである。その上での失敗は実力不足であり仕方ないのだ。これは私が今強く感じることであり、振り返れば後悔ばかり先になつたが、様々な機会を与えて頂いた」と言います。

洛星での生活は非常に充実したものでした。勉強だけでなく、クラブ活動や文化祭などの行事に積極的に打ち込むことができたという恵まれた環境や、素晴らしい友人達と切磋琢磨する中で僕達の生活は、人間形成の場として理想的なものであったと言います。

卒業生から一言

HIII E 舟場久芳
中学・高校とこの学校で学び、予想以上に得ることがあったのはキリスト教に信じるほどの根拠はない、現代の宗教は科学だと思っていました。タブーな宗教行事を行い、同時に世界の人々に関心をもつことは大切であり、また宗教と科学は矛盾しない、と知ることができました。もう卒業ですが、振り返るとこんなことと思います。

HIII F 森川 洋
前代未聞の五ヶ年皆勤賞が今年の卒業式に出たかもしれない。つまり、僕は中二から「ふあみりー」に入れた五年間でした。文金、タブー等、いろいろなことを経験させてもらいました。洛星の校風の変化を

HIII B 中井 亨
「いよいよ卒業やね」と周りの人に言われても、まるで他人の事のような気がしてピンとこないが、高校と

HIII C 山岸基洋
この洛星での三年間の生活は、ほくなくって、非常に有意義なものでした。洛星で学んだからこそ、主体性の確立と尊重が、重要なものだと思えるようになったのでしよう。このことは、僕の将来において、大きな影響を及ぼすことになると思います。

HIII D 古田知史
本当に短い六年が過ぎた。その中で感じたのが、皆少し、生き急いではないか。大人になればいやが上にもやらねばならぬ事を、背伸びしてやっていた事に気がつく。今、しか出来ない事を、体ごとぶつかってはどうか。人間は明日をも分らない身だから、今に金を使ってもやしてはどうか。失敗しても胸を張れるように生きていこう。自分も皆、情熱の中で生きてこそ価値がある。そう思わないか。

HIII E 石井宏昌
僕は6年間洛星でお世話になってきました。今思うと、何もかも中途半端に終わったような気がしますが、こんな意気込みで最後まで身につきあつて下さった先生方や友人、又、後輩諸君には、感謝の気持ちでいっぱいです。僕はこの洛星でこのようになつた人々と出会えたことを誇りに思っています。この絆を大切に、働きたいと思っています。兄弟のことをお願いします。

HIII F 山下哲司
卒業も間際になって、掃除の当番にあたつた。これが最後の当番だ。小学校を卒業するとき、どこかに自分の名前を彫った記憶がある。今、洛星を卒業するにあたって、最後の仕事だけは果たそう。(不熱心な掃除当番の感傷センチメント)。増大して行くエントロピー。人の歴史はそれへの反抗。それは洛星でも繰り返されるだろう。これからも、そして、僕の歴史の一部として、僕の母校よ、ここでの過去(六年)は現在(いま)の僕の中に生きていて、と言ふことで感謝の辞にかえよう。

HIII G 佐々木康成
憧れの洛星に来て早や三年が過ぎ去つた。たつた三年間ではあったが洛星の生活は、六年一貫の私立男子校という特質を全て有効に使っている点でとても有意義であった。今はまだ洛星の良さがわからずわだかまりのある人もいる様だが、卒業するまでにはわかつて欲しい。最後に僕の座右の銘を記しておく。少而学壯而有為 壯而学老而不衰 老而学死而不朽

卒業記念パーティー

恒例、卒業記念パーティーの様子は桑山田文元編集長のレポートでお伝えします。

去る二月九日、卒業の実感もまだ湧かぬ卒業式終了直後、卒業記念パーティーがパークホテル、「エディンバラ」ホールで催された。京都一広いホールだそうである。

パーティーは今西信隆氏の司会のもと、開会の言葉、来賓挨拶と進行し、今年で我々三十一期生と共に卒業される村田源次校長先生の食前のお祈りの後、奈倉協会の会長が乾杯の音頭をとって、待望の会食開始である。

食事の内容は、前菜、スープ、ステーキ、魚のフライ、アイスクリーム等々、一言でいえば、フルコースといわれるもの(らし)かつ

を送ることができたのも、ひとえに、両親や先生方、そして、友人たちのおかげであると感謝しています。

HIII C 松尾宏一
卒業に際して六年間を振り返つてみれば、やり残したことの多さに驚かされる。そして、得るものの多かつたこの洛星に対しては、言葉で表現できないほどの感謝の念がある。



HIII D 佐々木康成
憧れの洛星に来て早や三年が過ぎ去つた。たつた三年間ではあったが洛星の生活は、六年一貫の私立男子校という特質を全て有効に使っている点でとても有意義であった。今はまだ洛星の良さがわからずわだかまりのある人もいる様だが、卒業するまでにはわかつて欲しい。最後に僕の座右の銘を記しておく。少而学壯而有為 壯而学老而不衰 老而学死而不朽

HIII E 石井宏昌
僕は6年間洛星でお世話になってきました。今思うと、何もかも中途半端に終わったような気がしますが、こんな意気込みで最後まで身につきあつて下さった先生方や友人、又、後輩諸君には、感謝の気持ちでいっぱいです。僕はこの洛星でこのようになつた人々と出会えたことを誇りに思っています。この絆を大切に、働きたいと思っています。兄弟のことをお願いします。

HIII F 森川 洋
前代未聞の五ヶ年皆勤賞が今年の卒業式に出たかもしれない。つまり、僕は中二から「ふあみりー」に入れた五年間でした。文金、タブー等、いろいろなことを経験させてもらいました。洛星の校風の変化を

HIII G 佐々木康成
憧れの洛星に来て早や三年が過ぎ去つた。たつた三年間ではあったが洛星の生活は、六年一貫の私立男子校という特質を全て有効に使っている点でとても有意義であった。今はまだ洛星の良さがわからずわだかまりのある人もいる様だが、卒業するまでにはわかつて欲しい。最後に僕の座右の銘を記しておく。少而学壯而有為 壯而学老而不衰 老而学死而不朽

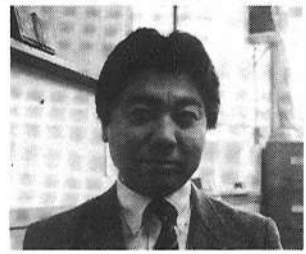
HIII H 古田知史
本当に短い六年が過ぎた。その中で感じたのが、皆少し、生き急いではないか。大人になればいやが上にもやらねばならぬ事を、背伸びしてやっていた事に気がつく。今、しか出来ない事を、体ごとぶつかってはどうか。人間は明日をも分らない身だから、今に金を使ってもやしてはどうか。失敗しても胸を張れるように生きていこう。自分も皆、情熱の中で生きてこそ価値がある。そう思わないか。

HIII I 山岸基洋
この洛星での三年間の生活は、ほくなくって、非常に有意義なものでした。洛星で学んだからこそ、主体性の確立と尊重が、重要なものだと思えるようになったのでしよう。このことは、僕の将来において、大きな影響を及ぼすことになると思います。

HIII J 舟場久芳
中学・高校とこの学校で学び、予想以上に得ることがあったのはキリスト教に信じるほどの根拠はない、現代の宗教は科学だと思っていました。タブーな宗教行事を行い、同時に世界の人々に関心をもつことは大切であり、また宗教と科学は矛盾しない、と知ることができました。もう卒業ですが、振り返るとこんなことと思います。

浜松の海老塚地区の住民運動で先日暴力団の一家が組事務所を撤去を余儀なくされたが、このニュースを聞いてぞっと背筋に寒いのを感じた。日本人の、自分と違う異物を嫌う、自分と違う異物を排除しようとする体質が顕著に表れているからだ。▼そもそもこの運動は警察の「組事務所を撤去して」という情報によって始められたもので、その後、暴力団である、というだけで「一力一家は海老塚を出ていけ」などの看板設置をはじめ、向かいにプレハブを建てて監視、商品の不売運動など住民運動は次々とエスカレートしていった。当然、何もそこまでしなくても、という住民も出て来るが、もう「住民」という身内の中に組み入れられてしまった間柄。当然違う意見だ認められぬ訳もなく「このままでは町が割れてしまう」という事を恐れて大挙して説得に向かう。こうして出来た一体化した住民のあまりにも一方的な攻撃にとうとう一力一家は暴力による対抗に出してしまう。それとばかりに大量の警官が張りつき何かあれば次々と逮捕されていく。▼これは何かの図式に似ていないだろうか。いじめである。もともと前者のターゲットは暴力団という極悪集団で後者は気の弱いかわいそうな子供達である。しかし、暴力団の様に人に迷惑ばかりかけている連中には何をしてもいいという風潮は、逆にその様な大義名分(例えばのろまで皆の足を引っ張っている)などさえ見つかればいじめを正当化できるといふ論理を生む。▼いじめに限らず、日本人の他の排除、身内のかばいあいによる弊害はあらゆるところに表れて来ている。もともと他を理解しようという姿勢が必要ではないだろうか。

COGNOSCE TIS
VERITATEM
LIBERABIT
VOS.



H IIIA 中山英治

卒業アルバムに書かせてもらった担任からのメッセージです。出典は新約聖書ヨハネによる福音書第8章32節。「あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にするであろう」

昨日の自分に
忠実であれ



H IIIB 石川康浩

三十一期の諸君、卒業おめでとう。今、君たちは永く住み慣れた洛星を離れて新たな住み家に希望を抱きながら日々過ごしていることだろう。

思えば、7年前には僕自身が君達と同じ境遇に同じ思いでいたのだ。やっと卒業できたという気持ちと、大学へ行ったらこうしようという期待とが特に強かったように記憶している。

実はこの聖句、君たちが、いつも身につけていたものなのです。生徒手帳の6ページ「自由への道」の冒頭に書かれてあるのが、覚えていませんか。

この聖句は、ワシントン・ジョージタウン大学の図書館の入口の壁面にも書かれてあります。留学中、図書館に入るたびに、私は頭上にこの聖句を見たもので、大学の図書館に掲げられているメッセージなので、このVERITASを学問上の真理ととらえがちですが、ジョージタウン大学がカトリック・イエズス会の学院であることを考えれば、VERITASは単なる学問上の真理にとどまらないにかそれ以上の「真理」であることに気がつく。

ところが、実際洛星の中では自分の思ってもみなかった事が多数あり学校生活も自分の予想とは食い違ってくる。次第に見えてきたことだらう。そして、クラブ活動や文化祭への積極的な参加が減り、高3になれば欠席遅刻というかたちとして君達の気持ちが現れてきたように思う。

というのがあります。「自由な人」とは、についても同様に考えさせられます。この「自由」は、ラテン語を見てわかるように、英語でいうところのLIBERTYと違って、FREEDOMと違って、この二語の相違についての私の考えは英語の授業でいつかお話ししたかと思いますが、最近よく洛星は「自由な」学校であるといわれていますが、それは本来どのような意味をさして、どちらの意味で「自由な」といわれているのでしょうか。卒業生、在校生を問わず、わたしは洛星ファミリー全員が再考すべき時かもしれません。

これからより高い学問の道に進もうとしている人には、ぜひともこの句を心に留めておいていただきたいと思ひます。とりわけカトリックミッションである洛星で学んだ君たちには、この聖句をじっくりと味わってもらいたいものです。

中学・高校・大学と何度となくさつた時期があった。何事も自分の思いどおりにはいかないものだということは何度となく思い知らされた。そのなかで僕なりに考え悩み、たどりついた結論は、昨日の自分に忠実に生きる「こと」だった。

御卒業おめでとうございます。今後の君たちの活躍を心から期待しております。

在治而不忘乱
在亂而勿忘治



H IIIC 正木三雄

三十一期生の諸君、卒業おめでとう。思い返せば「！喝！」しるしのついたエンマ帳を手にして四年間共に歩んできた想い出の多い学年だった。

式の日自分に忠実であるかを考え、頑張つてほしい。雑感

一九四二年八月、まだ日本は太平洋戦争に入っていない。三十一期生の諸君にたいして大きな期待と危惧の念を持ちながら思いを馳せるのである。

私達が生きていく過程においても、家庭や職場では何時でも平和に生活できる方がよいのは当然である。しかし、乱が起ることを想定しておくことも大切だと思ふ。今の日本は余りにも

H IIID 吉村輝一
三十一期の皆さん、御卒業おめでとうございます。卒業式もパティも滞りなく無事に終わって、我々もほっとしているところです。君に何か言うとしたら、昨日の自分に少し忠実であれということになってしまふ。

ろうか、その時の社会の要求に答えてくれるだろうか。と、三十一期生の諸君にたいして大きな期待と危惧の念を持ちながら思いを馳せるのである。

私達が生きていく過程においても、家庭や職場では何時でも平和に生活できる方がよいのは当然である。しかし、乱が起ることを想定しておくことも大切だと思ふ。今の日本は余りにも

H IIIE 丸山 貞
まるでムニストか何かの街頭勧誘みたいな題名をつけてしまった。この問いは卒業式以来私の心の中にある一つのこだわりから発せられている。きっかけは石井君の読みあげた「卒業生のことば」である。

豊かすぎて老若男女を問わずその豊かさに酔いしれているように思える。乱が何時起るか予測することは困難かも知れないが、唯、平和な時代の流れに酔いしれながら人間にはなっていない。今、君達が進もうとしている大学はレジャーランドではない、学問をする場である。自らが学ぶことの方法と豊富な知識を身に

一つ学年の特長というものはなかなか捉えにくいものですが、さきほどの借用させてもらえば、三十一期生は総称して「雑然党」とも言うことになるのでしようか。(もっとも素直に名前があれば、御随意におつけ下さい)。

愚公移山
H IIIF 上杉光彌
三十一期生の諸君、卒業おめでとう。人生のうち一番楽しく、有意義な時は中・高・大学の約十年だと思ひます。その後半に入る節目にあたって、日頃感じていることの一端を記して送る言葉に代えたいと思ひます。

つげ、多くの情報をよりの確に分析できる源泉にしてほしいと思う。現代の政治・経済はコンピュータの力に負う所が大きい。最終的には未来を見通していく力は人間が持っていることを忘れてはならない。

あなたに本当に
幸福か？
そう言えば授業のレポートなどで現代の日本に関連することを書かせると、今の日本のあり方を半ば手放しの自己賛美調で書く奴が必ず何人かいた。まあ卒業式という目出度い席だから、連中も気をきかせてこんな歯の浮くような文章も我慢してこしらえ、黙って聞いて、中には少しは自己陶醉にひたっている者がいてもよからう。しかしもし本気でこんなふうに考えているんだとしたら、一体オレはこの学校で何をやっていったんだらう……などと文にしてみると随分深刻そうなのを卒業式のとて考えた。

洛星に学んでいる諸君の多くは「頭がいい」といわれたい。その通りであると思ひながら、日頃の生活態度では「賢過ぎる」面が気になって仕方がありません。中学時代のやんち

この文を草するにあたり「卒業生のことば」の原稿コピーに再び目を通す。すると今度は、「このような幸福な時期に、幸福な国で成長してきた私たちは、非常に恵まれていたと思ひます」というくだりが(確かにどうしようもない驕慢の表現だが、いくらタタマエの式辞とはいながらもいささか「幸福だ」と言いきける程度に日本社会に幸福が行きわたっているのだらうが)将来への展望の見えない者の正直な悲鳴に思えてきてしまう。

世界中の苦しみの中にいる人々に比べれば今の自分は不幸だとは言えないから自分は幸せだと思わなければならないと考えていませう。世界の苦痛と共通の根から来た日本の「繁栄」の中の、矛盾に満ちた学校教育の一隅の洛星での、かけがえのないあなた自身の体験をもとに考えて下さい。

やぶりは別にしても、高校生活の中で、上級生になるに従って、受験に直接関係のない面を出来る限り省略しようとする態度がめだちました。遠足その他の学校行事での欠席。掃除・教室の整理・整頓などがだんだんおろそかになる。高3の後期になると、受験勉強第一となるのは当然としても、理由にならない理由で欠席遅刻が急増した。「受験にさえ成功すれば他はどうでもよい。」の感をうけたのは私だけでしようか。ちょうど高度経済成長期の「生産拡大の為に公害発生はしかたがない」今また「国内に残っている生き残れない」とばかり、相手国の都合などあまり考慮せず、諸外国に生産拠点を移した界一が象徴するように、目的の為に社会的公正さを犠牲にしていることと何

か通じるような気がしてなりません。しかし、多数の卒業生諸君はいろんな面で着実な努力をされていました。勉強はもちろん、炎天下の高校野球をはじめとしてクラブ活動に、文化祭などの生徒会活動に、その他、楽しく、時には苦しくても、自分の決めたことを最後までやり抜こうとしていました。六ヶ年や三ヶ年の皆勤・精勤の人数が多かったのはその象徴的なことで、本心にうれしいことでした。将来、高校時代を振り返った時、思ひ出は多彩であるのいいですが、一つのことを全力で投球したという自信の方が大きく残ると思ひます。

世界の中の苦しみの中にいる人々に比べれば今の自分は不幸だとは言えないから自分は幸せだと思わなければならないと考えていませう。世界の苦痛と共通の根から来た日本の「繁栄」の中の、矛盾に満ちた学校教育の一隅の洛星での、かけがえのないあなた自身の体験をもとに考えて下さい。

洛星に学んでいる諸君の多くは「頭がいい」といわれたい。その通りであると思ひながら、日頃の生活態度では「賢過ぎる」面が気になって仕方がありません。中学時代のやんち

第31期生に贈る

学校長 村田源次

第31回、洛星高等学校を卒業される生徒の諸君、お目出度うございます。

保護者の皆様お目出度うございます。

御存知の様に、百八〇人の方々は中学から入学されました。その中1の五月には初めての合宿旅行、秋の文化祭、体育祭、クリスマス・タブローでは美しい声で合唱の主役を果たしました。中学3年生では、長崎を中心とする研修旅行、秋の文化祭、体育祭では、中学生としての指導役を果たされる様に成長されました。

九〇人の方は高校からの入学で、最初の1年間は別、クラスで、ハードなスケジュールに打ち勝ち、高校2年生では、中学からの方々と協力して、秋の文化祭、体育祭の中核として責任を果たされました。人生の中で、精神的にも肉体的にも一番柔軟な時期に授業だけでなく、その他の活動に於いて、自らを開拓され、今日、この様に成長された事を見ると、教師として、自然に感無量という言葉が出ます。ここで、卒業生の諸君に、あらゆる分野において基礎作りの必要性が叫ばれていますが人生の基礎とは何かというところに就いてお話しして、はなむけの言葉と致します。

キリストは、或る時、弟子達に次の様なお話をなさいました。雨が降り、大水となり、風が吹いて、その家を襲った。家が倒れたが、倒れようは、ひどかった、と。(マテオ書7章24節)

このお話は、建物であろうと、人生であろうと、しっかりとした、正しい土台である岩という基礎の上に建てられないならば、外形は、どんなに美しくても、倒れ方が、ひどいと言えられていきます。

基礎が必要なのは当然の事です。また基礎作りとは易しい言葉です。しかし、当然であり、易しい言葉ですが、特に人生の基礎を正しく、認識して、作り保つ事が如何にむずかしいか、例を申し上げる必要はありません。

また、今日の様に、とめどなく科学技術が進歩し、情報化の進行する時代、その上、国際化が称揚されている時代に於いては、人類社会は、これまでの文化、文明を作り上げてきた以上の苦難を覚悟しなければならぬと思います。それは社会が益々複雑化し、政治、経済、産業あらゆる面で不透明になると思われるからです。

この様な時代に於いて、物質的な基礎は勿論の事、人生の基礎である。人生哲学、言葉を変えれば、人生観なる基礎倫理、道徳が必要であることは申すまでもありません。

では、洛星はいかなる基礎を与えて来たでしょうか。

洛星は、諸君が入学以来、人間は、神御自身が、御自分の創造された、宇宙完成の為に神の協力者としての人間に肉体的生命だけでなく、精神的生命すなわち靈魂をお与えになりました。つまり知覚意こそ人間各目の人格を形成する尊い永遠の生命なのです。

この事に就いて、私は次のように教えました。

第一に、人間各目は神のすがたであり、永遠に尊い存在であることです。

第二に、各自は異なった、タレント、即ち能力が与えられているということです。

このタレントを正しく伸ばし、宇宙完成の役割を各々の能力に応じて果たす使命があることを教えて来ました。その為に、洛星では、創立以来、道徳教育と知的開発の為に、出来るだけの努力をしています。授業を大事にする為に、黙想静養、時間厳守を大事にして来ました。また、講演会で広く知識を得ることが出来るように努力して来ました。この為に学校行事が広く行われた事を忘れはなりません。

私は、人間各目が、自分の生命の尊厳と使命を知ることによって、倫理観、道徳観を持つことが、本当の人生の基礎であると確信しています。生命の尊厳を知り、その上に各目の使命を全うする気概の上に建たれた、人格こそ、嵐にあっても倒れない、人生の建物であるのです。

御存知の様に、明治の教育改革を始めて、特に戦後の日本の教育改革は、日本を偉大な工業国に作り上げることが出来た。そのお蔭で、今日の物質的発展を見ることが出来たことは、たしかに喜ばしいことです。しかし、何か不足しているのか、豊かさの中の貧しさという言葉があります。その為に、今日、個性尊重の教育、国際性豊かな人格育成ということが要求されているのです。それは、人類の発展の基礎は物質的基礎だけでは不足していることを示しているのです。広い視野で世界を見ることの出来なかった未熟な知識、世界を治めることが出来るという思いを持った、高慢さは、敗戦という不幸な状態を生み出したと思います。

また、今日の青少年の中に見る暴力行為、エゴイズム、一部の大人に於ける片寄った、ナシオナリズム、これは皆な人間を主体とした、もろい土台の上に建てられた人格の表れではないでしょうか。

これからの人類社会は益々国家間の信頼と相互依存が必要になります。過去の間違いを繰返してはなりません。自分のみ、自国のみ成長を考へてはなりません。たとえ、全世界を儲けても、その靈魂を失った利益することは無い。とはキリストの教えです。今日の物質文明の豊かさの中に、この様に崩れ易い人格を見る故に、私達は、なお一層奮起して、神の教えの下で、人間性の真の把握の上に倒れない、基礎を築き、新しい人格の高貴な建物の建設に心がけなければなりません。各自が自分のタレントを大事にして、二〇倍、五〇倍、一〇〇倍にして、次の世代に新しい文化を遺す様に、洛星は教えて来ました。

この様な精神は、ウィアートル会の創立者、ルイ・マリ・ケルブ神父の教育理念の下で洛星はその創立以来、即ち36年、この実現の為に努力していることを忘れてはなりません。

また、カトリック系の学校は少なからず、皆同じ方針で努力しています。それは、キリストの教える、人類愛の精神から湧き出ているのです。御承知の様に、日本の教育方針にも、個性の尊重、国際性豊かな教育方針が叫ばれて来ましたが事は喜ばしいことです。即ち、私達の教育方針は間違っていない事の意味するものではありませんか？

卒業生の諸君、保護者の皆様、人世の中に、特に、正義の人である為の努力、愛の人格である為には、時々、苦しみ、悲しみもあります。その時、皆様が教室に掲げられている、キリストの十字架を思い出して下さい。

。愛は恐れを排除する。という事はヨハネの言葉です。キリストは人類を愛する為、正義を証す為に、御自分のすべてを捨て、御自分の生命を与えられました。そして、あの一歩恐ろしい十字架の刑をお受けになったのです。それは敗北ではなく、愛の勝利であり、死への勝利です。即ち父なる神は、キリストを復活させたのです。それ故、弟子達は自分の生命を賭けて宣教に従事されたのです。

それ故に、知者も貧者も、この十字架の下にひざまずくのです。この良き手本を遠く探す必要はありません。諸君の御両親の献身的な愛です。

今日良く知られている、インドのマザ・テレサの行為です。アウシュビッツで他人の身変になった、元長崎で宣教活動をなさった、コルベ神父です。また、諸君が長崎旅行で見た、26聖人達です。京都の河原で殺された近畿のクリスチャン達です。雲仙の崖から沸騰する地獄谷につき落された人々です。私が、この様なお話をするのは、諸君とお話した事を思い出して頂く為です。

なぜ、この様な精神、即ち、精神的基礎の大事が受け入れられないのでしょうか？

その理由の一つは時々お話ししました様に、この数世紀の間、多くの人々が科学的知識と宗教的英知を分離しようとして来た結果、神を棚上げして、人間の価値を人間のみに強く求めた為だと思えます。

その結果、人間の道徳感、倫理観は急速に麻痺して来ました。神を敬う精神が失われ、人間の生命に対する畏敬が失われています。

先程、お話ししました様に、物質的な豊かさの中に精神的な貧しさが、今日の青少年の精神を虫ばんで来ているのではないのでしょうか？

では、諸君は、どうならなければならないか？

第二次大戦後一九五五年一月九日、ラセル、アインシュタイン両博士は、人類の永続を保障する為に、道徳的、人道的立場で、戦争の廃絶を宣言する文章を発表されました。また、その二〇年後、一九七五年七月八日に、世界の科学者をまねかれて、第一回世界科学者会議をカナダのバゴイシュで開催されました。この会議には、日本からも湯川先生、朝永先生、小川岩雄先生も出席されました。以来、今日も行なわれています。その中で湯川先生のお仕事のひとつとして、京都国際会議場で開催されたのも、京都の歴史の一つです。また、ローマ教皇庁にも科学研究所があります。日本の科学者の中にも、このメンバーがいられます。科学と宗教が分離するのではなく、真理探究に於いて一致するものでなければならぬのです。諸君は、此後、それだけ、より高い学問研究、技術の開発を目ざして進まれると思えます。先程申し上げた、科学者達の様な謙虚な人格であって下さい。人類の未来を明るくするもの、暗くするもの、人間の心によるものです。非人間化の方向に進みつつある今日の文明に対して、真の人間の文化、文明が、いかなる基礎の上に立てられなければならないかを考え、神の愛と正義の下で毅然とした態度を取るものの出来る、真の勇者であって下さい。

正しい人生観を基礎とした、倫理観、道徳観を持った人格こそ真の学問の基礎、あらゆる分野で要求されている基礎の土台になります。この様な人格こそ、人類の幸福の為に貢献出来る、巾の広い人格の持主となることを確信します。

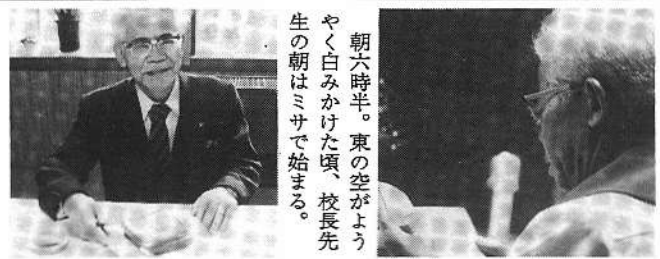
この様な人格を現代社会は諸君に要求しています。

諸君の健康と、これからの活躍を期待して私の卒業生諸君に対するはなむけの言葉を終わります。

この文章は小冊子にして、卒業式の日卒業生と保護者に渡されまして、たが校長先生の御希望もあり紙面に再収録しました。

先生校長の

の1日



朝六時半。東の空がようやく白みかけた頃、校長先生の朝はミサで始まる。



時間にして約二十分、修道院の中の小さな聖堂で一人何か一心に祈りをささげられた後は食堂にて朝食。コーヒー、トースト、ヨーグルトがいつものメニュー。コーヒーにはミルクだけで、「先生は砂糖のかわりに煙草を入れるんだ」とはオーペンさんの弁。



食堂後はしばし、今日一本目の煙草をふかしながらTHE DAILY YOMIURI(何と英語版)や朝日新聞などに目を通される。

局説
私達の長かったように短かった局員としての時が終りに近づいている。これを最後に引退することになるので、今回は今までの反省を含め、これからの新聞局のあり方について、独りよがりになるかもしれないが、述べていきたい。

洛星新聞がゴミ箱に捨てられているのを時々みかけるが、これは洛星新聞があまり面白くない、あるいは読みごたえがないことへの読者の反応の一つだと思う。実際にこの局説や他の長い文章を見たら、読者は読む気をなくすだろう。そこで、読者を引きつけるための方策を探っていく。

まず私達は、相手すなわち読者が何を期待し、要求するだろうか十分に考慮しなければならぬ。しかしそれを知るためには、読者とくくこの新聞をあま

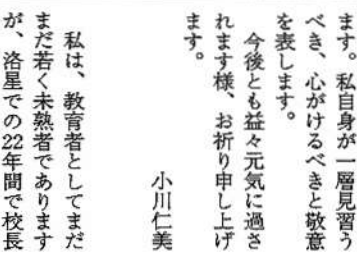
りよく読んでくれない人々の批判が必要である。ただ

しここで私達が必要としている批判とは「正しいやり方での批判であり、決してゴミ箱に捨ててもらうことではない。何を読むかは個人の自由であるから、絶対に読んでもらう必要はない。しかし読みたいとなったら、ぜひその理由を述べて欲しい。この新聞をより良くしていくのは読み手であるというのを皆さんが意識してくれれば、これをまず期待したい。

しかし読者に期待しているだけではいけないので、次に私達自身のことについて考えていきたい。私達の側で必要な事は真実をタイムリーに報道することだと思ふ。今まで誤報というものがよくあったが、絶対にならなければならない。数ヶ月も前にあった学校行事について書くという事もあるべくなくしていく。ただ、私達もそれなりの努力をしているということをと最後に言っておきたい。



生徒の成績に目を通されているところ。生徒の現況把握と学校の経営状態の監視は校長の重要な役目です。予算に厳しいチェックが入ることも……。他にもお客様への対応、校長会、役員会、理事会なんかで息をつく間もありません。忙しいと勉強する暇が無いのが一番さみしいそうです。



やっと一段落つきました。このパイプはお気に入りです。アフリカ産の海泡石の物。もう五時半なので、一段落したついでに帰られる事になりました。

七時五十分、部屋で支度を整えられ御出勤。八時には校長室に入られます。

校長先生の朝の仕事は生徒のパスデーカード書き。誕生日には届く様に二、三日前には発送します。

卒業論文を提出した日、北白川教会で村田神父様の面接を受けました。その時から「おじいさん」という感じでした。就職後聞もなく、神父様と高2の担任をしましたが、神父様の担任はこれ一回だけ、現教員で一人が、変わった経験をしていくわけですね。

私は、洛星に採用される前に面接に来た時、新田校長に始めてお会いしました。それから十六年間、先生の指導の中で洛星に勤務させていたにいます。他人を信じ決して疑わず暖かくつきまわす心、持主、たくさん学ばせていただきました。そして私は始めて担任を持った、藤原先生の中一の時、先生から洗礼を受けました。それから結婚、子供の洗礼と家族ぐるみのおつきあいです。いつまでもお元気で私達の父でいてほしいと思います。

先生方から一言

村田校長先生、長い間、本当に御苦労様でした。先生についていつも思うことは、まず「笑顔」であります。喜びの時はもちろん、苦悩、苦難があっても人と

接する時には常に微笑んで下さいます。先生から学んだものとして常にそうできるよう努力致します。

先生のお話を想うとき「……じゃないだろうか」という問いかけが浮ぶ。それは人格を信じ良心を喚起しようとするおられるのだと思う。薫陶だと思ふ。誤ちはあっても標となる声には敏感でありたい。そして、外からの、上からの支配というものを無きものにしていきたい。最後に、ある日、先生に教えていただいた御言葉を添えます。

『主は怒り給ふこと遅く憐れみおほひなり』詩篇145・8 岸根 誠

長い間本場に御苦労様でした。洛星の為にまだまだ一肌も二肌もぬいで下さい。 藤田行男

校長先生 ごくろうさまでした

16年間の校長職、ご苦労さまでした。教育実践のごとなどを校長先生と楽しく話せたのが、私には嬉しい思い出です。これからも気ままに大きな話(?)をしに行きます。お元気で!

寺井治夫

先生のお話を想うとき「……じゃないだろうか」という問いかけが浮ぶ。それは人格を信じ良心を喚起しようとするおられるのだと思う。薫陶だと思ふ。誤ちはあっても標となる声には敏感でありたい。そして、外からの、上からの支配というものを無きものにしていきたい。最後に、ある日、先生に教えていただいた御言葉を添えます。

話のくずかご 13

うやむや

冬季オリンピックにおいて、はたらく国旗よりもはなやかなのが選手のスポートウェアである。スキーには色とりどりの商標がつく。いろいろ規制はしていても「走る広告塔」を認めるキメ手はないらしい。特に、日本製品に、その傾向が著しい。メダルの数で、国の力を見せ合おう、大人気ないが、滑ったり、跳んだり、スキーの宣伝に利用されるのも、しるける風景だ。楽しみでやるにしても心身をきたえるためにしろスポーツとは本来無償の行為ではない。ここらに三学期の高校をのぞいてみよう。正月休みがあけたというのに、教室はひっそり静まりかえっている。今までのクラスは、解体され、生徒達

クラブ活動結果報告

バドミントン部

全国選抜京都府予選1/10
S(シングルス)
亀井2-0谷本(洛水)
準決勝
亀井2-0上杉(西乙訓)
決勝
亀井1-2辻(西乙訓)
D(ダブルス)
準決勝
栗野・舟山1-2谷本・中西(洛水)
亀井・藤田0-2辻・杉浦(同志社)
京都府新人戦団体 1/31
1回戦
洛星3-1西舞鶴
2回戦
洛星3-2西京商
準決勝
洛星3-2同志社
S1藤田0-2中村
D1亀井0-2辻
河合・杉浦
D2栗野2-0為國
舟山・杉浦
S2亀井2-1杉浦
S3舟山0-2辻
(三位)

バスケットボール部

第39回私学総合体育大会
(一回戦)
洛星52-44京都商業
(二回戦)
洛星64-44京都成章
(準決勝)
東山92-67洛星
(三位決定戦)
洛星77-49立命館
第7回京都府選手権大会
・市内1次予選
(一回戦)
洛星127-32京都西
(二回戦)
洛星76-69桂
(三回戦)
洛星61-50南丹
(四回戦)
洛星66-53洛陽工
・市内2次予選
(一回戦)

洛星55-53亀岡
(2回戦)
洛星72-28洛星
(市内ベスト4)
・本大会
(一回戦)
綾部72-61洛星
第3回新人府下大会
・市予選
(一回戦)
不戦勝
(2回戦)
洛星102-63紫野
(3回戦)
洛星63-28東宇治
(4回戦)
洛星52-49洛星
・決勝トーナメント
(一回戦)
洛星72-57福知山商
(2回戦)
洛星99-49洛星

サッカー部

新人戦
洛星0-1京都西
洛星1-0農芸
洛星0-5付属
洛星0-2向陽
(三位)

バレーボール部

洛星12-10久美山
洛星30-6同志社
洛星21-9西乙訓
洛星9-9嵯峨野
決勝トーナメント
洛星14-15桃山

軟式庭球部

選手権予選4/26
0回戦
谷尾・横田2-4北嵯峨
1回戦
長江・五味4-3北桑田
伊吹・金井4-1園部
津田・上町0-4京都商
2回戦
長江・五味2-4桂
伊吹・金井2-4太田
団体予選 5/24
0回戦
津田・上町2-4園部
谷尾・横田不戦勝園部

硬式庭球部

1回戦
長江・五味4-2桂
伊吹・金井4-1園部
谷尾・横田4-3黒井渡辺
2回戦
長江・五味3-4亀岡東
伊吹・金井2-4太田
谷尾・横田1-4京都西
選抜(新人戦)予選
1回戦9/15
長江・五味2-4嵯峨野
伊吹・金井1-4南丹
津田・上町3-4洛西
谷尾・横田不戦勝西京
2回戦
谷尾・横田2-4洛西

水泳部

同グブルス決勝
河原・内方
6-2増田・渡辺
1/15 新年フェスティバル
梶谷智志(M2)
100m自由形
55秒6 優勝
200m自由形
2分0秒0優勝
梶谷貴之(M3)
200mバタフライ
2分17秒6 2位
杉本淳(M1)
200m個人メドレー
2分39秒9 優勝
梶谷智志(M2)
100m自由形
54秒54 優勝
200m自由形
1分58秒3 優勝
伊藤雅之(H2)
100m自由形
56秒67 5位
岡崎太郎(H1)
400m自由形
4分24秒78 5位
藤田貴之(M3)
200mバタフライ
2分18秒35 2位
以上の結果でありました。
63国体の候補選手として
本校より伊藤雅之(H2)、
岡崎太郎(H1)、藤田
貴之(M3)、梶谷智志
(M2)の四名が選ばれま
した。

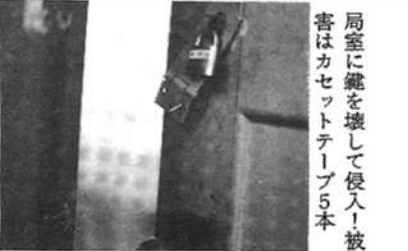
陸上競技部

後期成績
(後期はまだ試合がない)
3月20日、3月27日の記録
会、また春季大会にむけて
練習中。
中学3名、高校3名が増
えて現在中学6名、高校8
名となった。新入生をあわ
せてリレー等で頑張りたい
と思う。

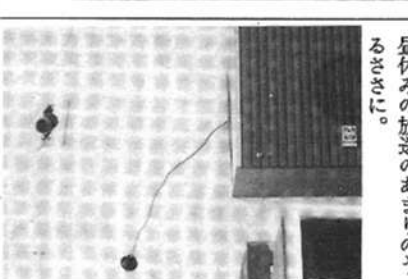
大盛況 クリスマスタフ

今年度のクリスマスは、暖かかったせいでしょうか来客の方々は千五百人を数え、第22回のタブローも見事な成功のうちに終わりました。
さて、今回はこの素晴らしい「折」であるタブローをたった一週間で完成する名スタッフ達をまとめる各パートのチーフに、一言ずつタブローに関する感想を述べてもらいました。
☆演出パート
(H11A中村宣彦君)
タブローは不思議で偉大な力を持っている。短い期間ではあるが、多勢の人間の心を一つにし、純粋にすめる。タブローに関わって初めてその力の存在に気が付き偉大さに感動した。これからは、タブローに誇りを持って、この偉大な伝統を受け継いでほしい。
☆舞台監督
(H11F船引厚志君)
タブローは五度経験しましたが、今年ほどつらく、又感動したことはありませんでした。舞台監督という大役を任されて一時はどうか、今年こそと心配しましたが、各スタッフ、諸先生方に助けてもらってタブローを作り上げることができたことは大変いい経験でした。
☆装置パート
(H11A中尾彰君)
あつという間に終わった一週間だった。前年度に、チーフをやれと言われた時から自分にとまるか不安だったが、あまり進歩はなかったものの、無難にこなすことができてよかった。来年度は更に素晴らしいものを目指してほしいと思う。
☆照明パート
(H11E生部有弘君)
狂気、熱気、元氣と三拍子そろった照明パートです。このパートはタブローの中で一番スゴイパートだと思えます。狂気をパワーに変換するんですから。という訳でそれでは今年も暖かい目で見てやって下さい。……キリスト様も許して下さい。馬鹿騒ぎ、アハハ……
☆聖歌隊
(H11F原博昭君)
例年の如く準備期間が短くあわただしいタブローでしたが、高2の仲間の協力もあって、我が聖歌隊も何とか役目を果たすことができて、よかったと思います。最後に苦名先生、遠藤先生お世話になりました。
☆総務パート
(H11C西村拓也君)
タブロー終了後、舞台上では万歳三唱が起りましたが、監督の船引君が感動の涙を流す中、我々パートはお客さんの対応にとびきり打ち上げのパーティーの準備にとりかかっています。我々はいつも舞台から離れた所で働いてはいるが、それで満足している。なぜならそれも又、タブロー(折)であるからだ。
☆その他、たった五人でコントロールドームを切り盛りしていた効果パートチーフの佐々木君や、それを好フオロした舞台コントロールドームのチーフ芝浦君は高1ながら大活躍でした。そして、たった一週間であの素晴らしいハーモニーを完成させるハンドベルパートチーフの石川君や、細やかな作業と忍耐力を必要とする衣装小道具チーフの池田君など、みなさん大変御苦労さまでした。
さて、タブローと言いまふと、一般の生徒の方々はあまり来られないようですが、スタッフ、先生方あわせて二百余名の方々が作り上げたこのタブローを通して、ただ単にパートを開いてプレゼンテーションをもらうだけのクリスマスではなく、折角洛星に入ったのですから「折」であるクリスマススを体験していただきたいものだと思います。

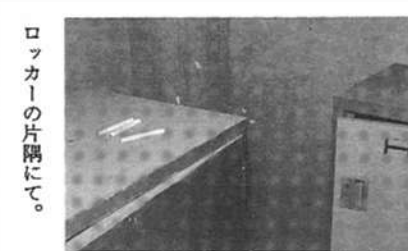
すなっぶ写真



局室に鍵を壊して侵入し被害はカセットテープ5本



昼休みの放送のあまりのうるさに。



ロッカーの片隅にて。

局員募集

英語の藤田先生
又は、局員まで

編集後記

マこの号で編集長を引き継いで九一年になります。当分引退できそうにない。これから何卒よろしく。
愛用のナイコン(日本語でいうとニコン)を、またコンクリートの上に落としてしまった。点検に持って行くのが怖い。
(編集少年)
マ今回お届けする新聞が、私達のつくった最後のものとなりそうです。原稿を頼むのにあちこち飛び回った、卒業生のところへインタビューに行くことももうないでしょう。しかしこれは来年度にスタッフが充実した場合にいえることであつて、そうでない場合は高3になっても仕事しなければならぬかもしれません。どうか皆さん新聞局に入つてやって下さい。
(引退決意人)
▽短句「おつかれさま」
句評、この一年間、素人の局員をかかえながらみごと年四回新聞を発行した変倉長津田氏と曲長本郷氏に対する句と思う、この句の解釈。しかし、この句の背景は来年度の高2が1人しかいない、この2人が来年もまた新聞を書かねばならないという状況があること。
スタッフ
編集長 H11E 津田憲言
局長 H11A 本郷偉元
局員 H11B 加藤一幸
H11C 西村拓也
H11E 竹澤京介
H11C 落合直也
顧問 英語科 藤田先生